

広大から海外へ留学している若手からの便り

米国カリフォルニア大学デービス校便り

福戸 敦彦 大学病院 感覚器・頭頸部診療科 眼科 助教

私は現在、米国カリフォルニア大学デービス校のMurphy-Russell-Thomasy研究室に留学しております。角膜の創傷治癒や、角膜移植の原因疾患であるフックス角膜内皮ジストロフィの研究で顕著な成果を上げている研究室です。私の研究テーマは、ナノ粒子の角膜への毒性や創傷治癒へ与える影響の評価です。ナノ粒子とは1～100ナノメートルのサイズの粒子のことで、日焼け止めなどに使われています。研究室のメンバーは皆親切で、気軽に質問できます。ナノ粒子や毒性学について学ぶのは初めてでしたが、彼らとディスカッションしながら楽しい研究生活を送っています。

デービスはサンフランシスコから車で1時間半の距離にある小さな町です。気候は温暖で、治安も良く、大変住みやすいです。ワインの生産地として有名なナパバレーが近く、休日にワイナリーを訪れて試飲するのが楽しみの一つです。

末筆ながら、貴重な留学の機会を与えて下さった当教室の木内良明教授をはじめ、広島大学眼科同窓会および広島県眼科医会の先生方に感謝申し上げます。



研究室メンバーと一緒に（筆者最後列の右から2番目）

編集後記

BioMed News第2号を発刊するにあたって、ご協力いただきました執筆者ならびに広報委員の皆様には心から感謝申し上げます。2019年、広島大学は日経HRの調査で企業人事担当者が見た大学イメージランキング、「対人力」全国1位に評価されました。上位を国公立が占め、新たな研究領域の開拓が奏功していると述べています。一方、スイスの有力ビジネススクールIMDによる世界「競争力」ランキングでは日本の総合順位は30位と過去最低でした。さらに、英教育専門誌（THE）の世界大学ランキングでは日本は上位に2校しか含まれていません。

学長メッセージにありましたように日本の科学研究は2019年8月「科学研究のベンチマーキング」によると、自然科学系の総論文数がこの10年間で世界の主要国と比べて少なく、日本のみ減少傾向が続いていると指摘しています。研究の担い手の減少が背景にあるようです。広島大学では4月に医系科学研究科がスタートしました。本格的な大学院改革での研究の環境づくりが進む中、本号では霞地区12人の新任教授のご挨拶、新設講座、座右の銘や研究最前線などについて掲載しました。

2019年11月 広報委員 日野 孝宗

2019年（令和元年）11月発行

編集発行：広島大学大学院医系科学研究科広報委員会

住 所：〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電 話：(082) 257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）

E-mail：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

U R L：https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs